

選定された種・群落のなかで代表的なものの解説 植物（植物群落）

寒温帯上部・気候的極相

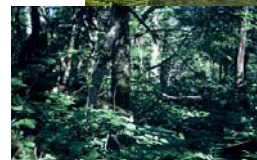
八経ヶ岳周辺のシラビソ群集

吉野郡天川村・上北山村・五條市大塔町

関西以西のシラビソ群集は、奈良県最高峰の大峰山脈・八経ヶ岳周辺にのみ発達する。高木層・亜高木層はシラビソを優占種とし、トウヒ、ナナカマド、オオヤマレンゲなどがわずかながら生育している。草本層には高木層の稚樹のほか、シラネウラボ、カニコウモリ、サンカヨウなどを伴っている。近年、ニホンジカによってシラビソの樹皮が剥がされ、立ち枯れが発生しており、消滅寸前の状況にある。

国指定天然記念物：仏教嶽原始林

環境省自然環境保全基礎調査：特定植物群落「八剣山のシラベ林」



写真提供（上・右）：天川村
（左上）：菅沼孝之

暖温帯下部・気候的極相

八幡神社のタブノキ群落

吉野郡川上村白屋

旧丹生川上神社上社（吉野郡川上村迫）、旧天武天皇神社（同北塩谷）の社叢が消滅していることから、県内に残された唯一のタブノキ林となっている。白屋岳の崩壊土砂が堆積したところに、タブノキ、ヤブツバキ、サカキなどが生育し小群落を形成している。現在、ダム工事に伴う地滑りの関係で地区住民全員が避難しており、今後地滑りの発生によって消滅するおそれがある。

環境省自然環境保全基礎調査：特定植物群落「白屋八幡神社のタブ林」



写真提供：菅沼孝之